２０１３年 ２月 ２６日

# 青梅線拝島変電所 リチウムイオン電池式電力貯蔵装置使用開始について

○ JR東日本ではこれまで、自営発電所等の設備更新や蓄電池駆動電車の試験など、エネルギー分野の新技術導入に取り組んでまいりました。その一環として、回生電力の有効利用を目指した「リチウムイオン電池式電力貯蔵装置」の設置工事を青梅線拝島変電所で進めてまいりました。

○ この度、設置工事が完了し、2月20日に使用開始しました。

## リチウムイオン電池式電力貯蔵装置とは

電力貯蔵装置は、電車が停止するときに発生する回生電力を蓄電設備に充電し、電車が力行するときに放電し使用するシステムです。

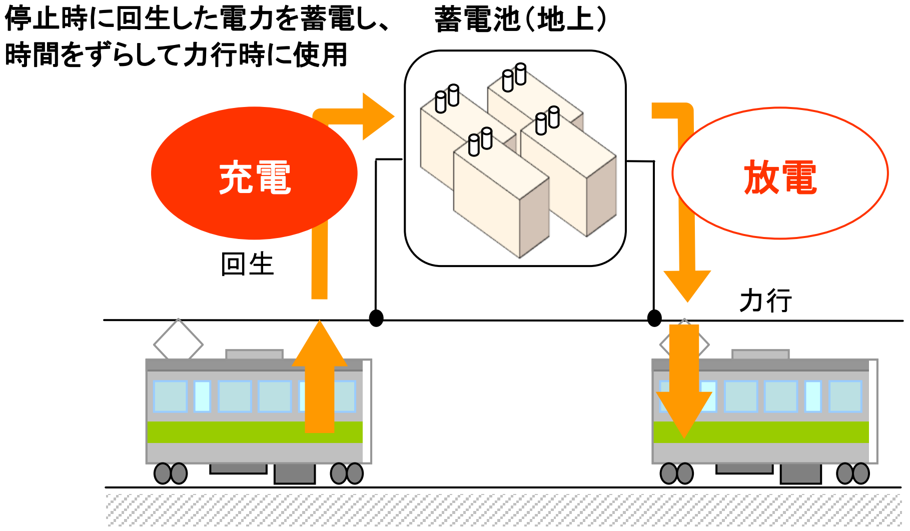
停止する電車からの回生電力発生時に、近傍に力行する電車がいる場合には、力行する電車で回生電力は消費されますが、近傍に力行する電車がいない場合には、回生電力は有効利用されません。

そこで、今までは有効利用されていなかった回生電力を蓄電池に充電し、必要なときに放電することで、エネルギーの一層の効率的な利用を実現するものです。

蓄電設備として、いくつかの電池がありますが、本設備には幅広い利用実績があるリチウムイオン電池を利用しています。

拝島変電所では、昨年から設置工事を進めてまいりましたが、このたび工事が完了したことから、2月20日に使用開始しました。

（注：力行とは、電車や機関車等のモーターやエンジンの動力を車輪（駆動輪）に伝えて加速、または上り勾配で均衡速度を保つこと）




【リチウムイオン電池式電力貯蔵装置】

蓄電池容量：76.12kWh
制御部　：6.9m×3.5m×3.2m
蓄電池部：4.9m×1.4m×2.7m(2基)